

特集 メモリアルイヤー 2009

2009 年は、自然科学分野において、重要なことが起きてから○百年目に当たるメモリアルイヤーです。そこで、りとにゅーす第 60 号では、特集を組んでみました。

ダーウィン生誕200年。「種の起原」刊行から150周年。

※「種の起原」は、「種の起源」と書かれることもあります。

進化論については、浅田伸彦先生開講の「遺伝学」「集団遺伝学」（基礎理学科）「進化動物学」「動物遺伝学」（動物学科）などが本学にはあり、大学の授業で学ばれた方もいらっしゃると思います。また、大学の授業でなくても、高校の生物を取った方は、ガラパゴス諸島でのフィンチのくちばしの話について、きっと聞いたことがあると思います。

実は、この「種の起原」って略称だと知っていましたか？

正式名称は“On the origin of species by means of natural selection or the preservation of favoured races in the struggle for life”「自然選択の方途による、すなわち生存競争において有利なレースの存続することによる、種の起原」と言います。この「種の起原」は、教会の権力が強かった 19 世紀に刊行され、自然科学のみに留まらず、文化的にも社会的にも、そして西洋だけではなく、東洋も含めて全世界的に影響を与えた偉大なる一冊です。この「種の起原」が刊行されてから 150 年目に当たります。

この機会に「種の起原」を読みましょう。と、言っても、遺伝に関する授業を受けた方以外の、進化論について何の前知識もない方には、まず読めない難解な書籍だと思います。

～先ずは入門書から読んでみよう！～



ダーウィン『種の起原』を読む / 北村雄一著. — 化学同人, 2009.

所在：11号館一般 請求記号：467.5/Ki

そこで、「種の起原」初心者の方は入門書から読んでみましょう。中でも、お薦めなのが、『ダーウィン『種の起原』を読む』です。現代遺伝学の知識を基に、初心者に分かりやすく「種の起原」について書かれています。